

ている部分または気になっている体力に応じて、自分に合った体操を自ら選んで挑戦していった姿からもうかがえる。

※自己評価は4段階

番号	氏名	気になっている体力	選んだ体操の 種目	選んだ体操の 種目	選んだ体操の 種目	自己評価	自己評価	自己評価
1		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	3
2		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	3
3		柔軟性がない	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	3
4		持久力、筋力	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	3
5		美しい動作が好き	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	4
6		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	3
7		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	4
8		美しく動けない	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	3
9		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	3
10		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	3	2	3
11		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	3	2	3
12		美しく動けない	ダンス	ダンス	ダンス	3	4	1
13		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	3
14		美しく動けない	ダンス	ダンス	ダンス	3	2	3
15		美しく動けない	ダンス	ダンス	ダンス	3	3	3
16		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	2	3	3
17		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	3	2	4
18		腕の筋力が強い	ダンス	ダンス	ダンス	4	4	3
19		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	4
20		持久力がない	ダンス	ダンス	ダンス	4	3	1

また、それぞれが選んだ体操で、単元初めと単元終わりを比較してみた。

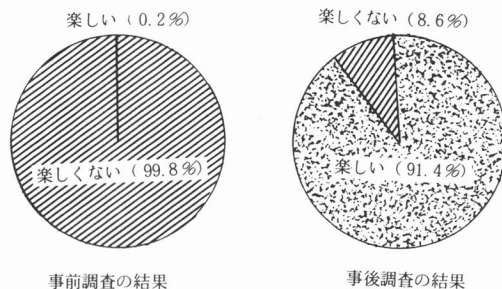
	3つ伸びた	2つ伸びた	1つ伸びた	伸びない
男子	3人	11人	4人	0人
女子	1人	7人	8人	2人
合計	4人	18人	12人	2人

この結果から、わずか2週間あまりの期間ではあったが、34名の児童が自分の記録を伸ばしていることがわかる。

以上のことから、今回、事前の意識調査をもとに実施した「チャレンジ体操」は、体操の特性を児童にとらえさせたことと、さらに、目的意識をはっきりとさせ、体操の必要性をより強く意識させることに役だったと考えられる。

## ② 複線的な体操教材の工夫について

本単元を実施した結果、実施前には体操を楽しんでいる子は一人もいなかったのが、実施後には9割以上の児童が体操を楽しんでいると答え、意識に変化が見られた。



## チャレンジ体操が楽しかった理由として

- 目標が達成できたこと
- 挑戦する目標があったこと
- いろいろな運動を経験することができたこと
- やりたい体操が選べたこと

などをあげている。それぞれ違う要素の5つの中から3つの体操を選ばせる方法は、児童達の希望を十分に生かし、運動欲求を満足させてやることのできたと考えられる。

## 7. まとめ

### (1) 成果

今までどちらかといえば一斉指導的な方法で行われてきた体操領域において、個に応じた指導の在り方を探ることができた。

### (2) 課題

今回の体操においては選択制で行ったが、今後は児童一人一人が自分に合った体操を考えていくことができるようにしたい。

研究協力校 福島大学教育学部附属小学校 6年4組